

2020年度利用報告書 補足説明 (2020.6.版)

【全体的注意事項】

本利用報告書は研究論文ではなく、ナノテクノロジープラットフォーム支援機関の利用に関する「利用報告書」です。プラットフォーム支援機関の設備を利用して実施したプロセス実験や試作、評価等の内容と、得られた結果を公開することが目的であり、それによって達成された研究成果などは可能な範囲で記載して頂ければ結構です。

重要なお願い

利用報告書は、インターネット上のホームページ等で公開されることを前提に作成ください。例えば、知的財産権確保に必要となる技術(図面等を含む)の記載には十分ご注意ください。特許出願を予定している技術内容は、利用報告書に記載しないことをお勧めします。

その他のお願い

- (1) 利用報告書は1ページで作成してください。どうしても収まらない場合でも、2ページ以内でお願いします。分量の目安として、2段組み部分の70%程度以上は記載してください。(技術相談はこの限りではない)
- (2) 本文の表記は、和英併記する必要はありません。項目ごとの和英混合は構いません。
- (3) 専門分野以外の人には普及していないと思われる用語や略号は初出時にフルスペルで記載ください。
- (4) 原則として、和文のフォントはMS P 明朝、欧文のフォントはCentury、長さ単位のマイクロン等を表す場合の欧文フォントはSymbolに揃えてください。
- (5) 利用報告書に記載できなかった論文・学会発表・特許等(紙面不足、利用報告書提出後の掲載・発表)、ならびに他の支援機関や他のプラットフォームを利用した実績は、成果利用届等で支援機関にご連絡ください。

利用課題名

- (1) 利用者が外国人の場合、日本語課題名は空欄で結構です。
- (2) 研究目的や利用内容等が理解できる課題名を記載ください。利用課題名は研究テーマ名と同じにする必要はありません。利用の内容を適切に表すようにしてください。

利用者名

- (1) 支援機関に利用申請(課題申請)した者ならびに共用装置を利用した者のみ記載ください。すなわち、共同研究者であるが支援機関を利用していない人は記載しないでください。支援機関参加者(技術支援者)は利用者ではないため、ここに名前は記載されません。
- (2) (利用者が一人の場合も)課題申請者にアンダーラインを引いてください。
- (3) 漢字表記(日本語、中国語、韓国語)は間に半角ブランクを入れないで下さい。English 表記は family name の前に半角ブランクを入れてください。

所属名

大学の所属は学部学科または大学院研究科(または専攻)まで記載ください。企業は企業名のみ、技術研究組合は組合名までの記載で結構です。

キーワード

報告書の内容に関連する技術キーワードを3～5語 記載してください。うち 1 語は以下のワードを必ず選んで記載してください

「リソグラフィ・露光・描画装置」、「成膜・膜堆積」、「膜加工・エッチング」、「合成」、「熱処理」、「ドーピング」、「表面処理」、「形状・形態観察」、「分析」、「切削」、「研磨」、「接合」、「電気計測」、「機械計測」、「シミュレーション CAD」

また、可能であれば、応用分野に関する以下のキーワードも推奨します。

例)「バイオ&ライフサイエンス」「化学&分子テクノロジー」
「ナノエレクトロニクス」「フォトニクス」「N&MEMS」
「マテリアルサイエンス」「環境技術」「エネルギー関連技術」

【本文中 各項での記載注意事項】

1. 概要

研究開発、技術開発の目的や実施内容等を、開示可能な範囲で、簡潔にご説明ください。

2. 実験

【利用した主な装置】

- (1) プラットフォームの登録装置一覧に記載されている装置名で正確に記載ください。

- (2) 記載に登録外の装置を加えても構いません。

【実験方法】

- (1) 支援機関でどのような実験や試作を行ったかを記載ください。支援機関で実施した内容と、別の機関で行った内容(利用者が自機関へ持ち帰って評価した場合など)が区別できるように記載ください。
- (2) プロセス条件は開示可能な範囲で出来るだけ詳しく記載ください。

- (3) 過年度利用の成果でも当該年度に発表のものは記載していただいて結構です。(複数年度継続的利用の場合を想定しています。)

- (4) 発表タイトルの記載は省略して構いません。

- (5) 発表者・著書名は「〇〇〇〇 他」、「A. Aaaaa *et al.*」の表記で構いません。

- (6) 紙面が限られているため、主なものを3件以内としてください。

3. 結果と考察

- (1) 図表は可能な限り掲載ください。図表の番号、説明は必須で、図表の説明(Figure caption)は英語で表記ください。利用報告書の読者が、装置を使って何ができるかイメージできるような図表を期待します。
- (2) プロセス条件とプロセス結果が対比できることを期待します。
- (3) 今後の展開を述べる場合はここに記載下さい。

4. その他・特記事項

- (1) 利用報告書内で引用した参考文献や、用語の説明がある場合は、ここに記載ください。
- (2) 先頭あるいは末尾の発表者・著者が支援組織(共用組織)の方の論文・学会発表は、「関連文献」としてここに記載ください。
- (3) 利用形態が「共同研究」利用の場合、対応した「支援組織の関係者(技術支援者等)」の名前と組織名を記載ください。利用形態が「共同研究」利用でない場合でも、共同研究している企業や大学の研究者がいる場合は、名前と所属を開示可能な範囲で記載ください。
- (4) 外部競争的研究資金による利用の場合は、開示可能な範囲で、その競争的資金名を記載してください。
- (5) 他のナノテクプラットフォーム支援機関を利用した場合、利用した機関と課題番号(F-20-xx-xxxx:わからないときは番号は不要)を記載して下さい
- (6) 技術支援者への謝辞の掲載を歓迎します。

5. 論文・学会発表

- (1) 本利用の成果等に関連する利用当該年度以後のご発表をご記載ください。
- (2) 公開猶予の場合、猶予期間でのご発表等の成果はここに追記されます。

6. 関連特許

テーマに関連した特許(公開、登録)を、記載ください。

公開もしくは登録特許について記載し、公開前の出願番号を記載する必要はありません(但し利用者が、特許出願状況を記載することを希望する場合には「特許出願済み」とのみ記載してください)。過年度出願済みでも構いません。

アンダーラインを施した部分は、毎年、利用報告書の作成において特に記載不具合が多く、修正をお願いした内容です。